

イノシシ出没注意!!

近年、里山の荒廃や耕作放棄地の増加に加え、狩猟者の高齢化や減少などでイノシシや鹿など大型鳥獣の生息域が拡大し、農作物の被害が全国的に拡大しています。

本町でも、緑豊かな丘陵地が一方ではイノシシの絶好の繁殖場となり、農作物被害が深刻化しています。さらにイノシシが原因と見られる土手の崩壊や、丘陵地付近の集落では庭先にまで出没するなど、人的な被害も懸念されています。

このため町では**増えすぎた**個体数を減らすため、猟友会のご協力のもと、箱わなを27基設置して捕獲に努めています。

しかし‘天敵’の少ないイノシシは繁殖力が強く、捕獲による対策だけでは限界がありますので、被害にあわないよう**自衛**をしていただくことも重要です。



西小磯宮ノ上で捕獲(推定3歳、雄、体長約120cm、体重約80kg)

1. イノシシ被害を防ぐために

(1) 棲家(すみか)をなくす

イノシシは雑草などが生い茂った場所に身を隠し、周りの様子を伺っています。本来は臆病な動物なので、身を隠せる安全な場所がないと通常は人前に現れません。そして、メスはこの安全な場所出産し子育てを行います。特に食べ物のある田畑に隣接した耕作放棄地は絶好の棲家(すみか)となります。

イノシシを近くに寄せ付けないためには、雑草類を生い茂らせないなど周辺環境を整備し、**イノシシにとって安全な棲家を遠ざける**ことが大切です。

(2) エサを与えない

①イノシシは犬並みの鋭い嗅覚を持つと考えられています。野菜くずや残飯などを付近に放置することは、‘餌付け’をしていることとなります。エサとなるものを農地や住居付近に放置しないように心がけてください。

②散策などで山に弁当等の食べ残しを放置すると、人間の食べ物の味を覚えゴミ集積場などが狙われる可能性があります。ゴミは必ず持ち帰りましょう。

<ウラへ続く>

(3) 防護柵等で侵入を防ぐ

- ①農地をトタン・金網・電気柵・ネット等で囲い侵入を防ぎます。
 - ・トタン板は押し倒しや持ち上げ等により侵入されることもあるので、地面とのすき間を無くすなど設置方法に工夫が必要です。
 - ・金網は柵の下部から侵入されないように、裾をしっかりと固定します。
 - ・電気柵は正しく設置すれば高い効果が期待できます。ただし、効果を維持するためイノシシの衝突等による断線補修や、雑草による漏電を防ぐための除草などこまめなメンテナンスが必要です。
 - ・ネットは地形を選ばず設置が容易ですが、作物が見えることでイノシシの侵入意欲が持続するため破られやすいです。強度を得るためネットを2重にし、さらに外側を少し斜めに設置すると侵入防止効果が高まります。
- ②家庭菜園などは、イノシシから見えないよう柵(高さ1 m以上)をするなどの工夫をしましょう。

★柵の設置方法について分からない場合は、担当にお問い合わせください。

◎農家の方が田畑に防護柵を設置する場合、町では費用の一部を助成する制度があります。詳細は産業観光課(産業振興係)にお問い合わせください。

2. イノシシに出会ったら <参照：中央農総研「イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発」>

- (1) 何もしてこない場合には、近寄らずに放っておいてください。
- (2) 近づいてきた場合はゆっくりと後ずさりしてください。大声を出したり急に動くなど刺激を与えると、イノシシが驚いて思わぬ事故につながる場合があります。
- (3) イノシシは嗅覚に優れているため、持っている食べ物のにおいを嗅ぎ付けて近寄ってくる場合があります。この場合には速やかに食べ物を体から離して、ゆっくりとその場を離れてください。
- (4) イノシシを追いかけて回すのは絶対にやめてください。興奮して周りの人を襲うなど大きな事故につながる危険があります。

問い合わせ 町環境課(環境・エネルギー係) 電話 72-4438
※農作物被害に関することは産業観光課(産業振興係) 電話 61-4100 内線